



火星接近によせて

夜半の南の空に、赤く明るく輝く星を見つけることができます。秋が深まるにつれ見やすくなるこの星は、2年2か月ぶりに地球に接近する「火星」です。ギャラクシティの「星空解説」でも、このところよく話題に取り上げる星です。火星は、太陽のまわりを地球の1つ外側の軌道で回る惑星です。10月6日に最接近を迎え、地球からの距離6300万キロメートルまで近づき、その頃には、マイナス2.6等級とひととき明るく輝きます。火星は地球から遠ざかると1.8等級まで暗くなり、ふつうの2等星とあまり変わりません。ところが火星は、近づくと急に明るくなります。そのため以前には無かった赤い妖しい星が突然現れたように感じられ、不吉な星という誤った印象を持たれました。日本では「わざわい星」、中国では、人を惑わす明かりという意味の「熒惑」、ギリシャでは戦の神「アーレス」、英語でも同じ神様の名前である「マーズ(Mars)」と呼ばれます。もちろん、不吉な名前ばかりでなく、単に「赤星」と呼んだり、アメリカでは「the Red Planet (レッドプラネット=赤い惑星)」と言ったりもします。

明るさが大きく変わったり、急に变化する理由の1つに火星の軌道がやや歪んだ楕円形であることがあります。このことは、実は地球の生物である、われわれ「地球人」の文明に大きな影響を与えました。それについては、まるちたいけんだより the ムービー (右のQRコード参照) 「火星に感謝を!」と「火星に敬意を!」(各5分)でお話していますので、是非ごらんください。(2020年9月10日記)



戦の神アーレス (画: 高部哲也)



(解説員: 田部 一志)